特集1 「C to Sea プロジェクト」　推進！

「C to Sea プロジェクト」の活動

C to Sea プロジェクトアンバサダー「STU48」との連携

瀬戸内エリアを中心に活動するアイドルグループ「STU48」と連携し、海や船の楽しさを発信しています。

フェリーを改造した船上劇場「STU48号」が、4/16に出航しました!

(→【特集①】2ページ後をご覧ください)

▲海の日イベントにSTU48メンバーが登場！

SEA-GOTO　海のシゴトガイドブック（→【特集④】）

現役船長など海事産業で働く36名にインタビュー!

その内容をポータルサイト「海ココ」にて公開しています。

また、冊子を中学校に配布、SNSを活用するなど、様々な方法で、中高生に海のシゴトの魅力を伝えます。

「C to Seaプロジェクト」ご当地アンバサダー

2018年1月、地域に密着した海や船の魅力を発信する「ご当地アンバサダー」を設置。

第1弾として、中国地方アンバサダーに久保田夏菜さん（フリーアナウンサー）を任命しました。今後、他地域への展開を進める予定です。

中国運輸局次長から任命状を受けとるご当地アンバサダー久保田夏菜さん▶

わがまち海自慢

全国の自治体から海や船に関する写真を募集し、「海ココ」やSNSで発信中。その土地でしか味わえない海のグルメや綺麗な景色が満載です!

▲兵庫県神戸市は、神戸港の夜景が自慢！

海と船の情報ポータルサイト「海ココ」&SNSで海の情報を発信中!

「SEA-GOTO」、「わがまち海自慢」、アンバサダーの活動のほか、海や船に関連するイベント情報などを掲載中です。

また、SNSでは、「海ココ」掲載情報のほか、海辺の写真や海の仕事の情報などをアップしています。ぜひご覧下さい。

「海ココ」はこちらから▶ご覧ください

マリンアクティビティの魅力向上のための取り組み・先進的事例

プレジャーボートをもっと身近なものに!

自らボートを所有しなくてもボート遊びを楽しむことができる先進的事例として、ヤマハ発動機（株）が運営するヤマハマリンクラブ・シースタイルがあります。全国約140ヵ所のマリーナにおいてボートをレンタルでき、気軽に遊ぶことができます。

また、船長が同乗し操船する「チャーターボート」のサービスが、全国で人気上昇中です。ボート免許の無い方でも手軽にクルージングや釣りなどを楽しむことができます。

全国16ルートに拡大! ～マリンチック街道～

「マリンチック街道」は、プレジャーボート等によるクルージングの中に、海の駅等へ寄港・上陸して近郊の観光地やグルメスポット等を巡るという要素を加えたモデルルートです。ボートユーザーに加えて、旅行者やグルメ愛好家等、幅広い方々が安全かつ気軽にクルージングを楽しめます。

2018年12月にマリンチック街道を一般公募したところ、その関心の高さから多数の応募があり、2019年3月に新たに11ルートを追加しました。現在は、16ルートが登録されています。

全国に16ルート展開▶

▲マリンチック街道認定セレモニー（2019.3）

19・20歳はマリンアクティビティ体験無料! ～海マジ! ～

「海マジ!」は、（株）リクルートライフスタイルの運営による、19・20歳の若者にマリンアクティビティを無料で体験できる機会を提供するサービスで、2018年に「C to Seaプロジェクト」の協賛企画として開始しました。

全国70以上の施設でクルージング、サーフィン等を無料で体験することができますが、開始1年足らずで約4万5千人（2019年3月末時点）が登録しており、関心の高さがうかがえます。海への親近感を深め、マリンアクティビティ愛好者を増やす新たな需要喚起策として期待されています。

▲「海マジ！」ポスター

国土交通省では、子どもや若者をはじめとする多くの人にとって、海や船がもっと楽しく身近な存在になるよう、2017年夏より「C to Sea プロジェクト」を推進しています。

シンボルマークには、国民（Citizen）、子ども達（Children）、文化（Culture）などの様々な「C」を「Sea（海）」につなげたいという想いが込められています。

※「C to Sea プロジェクト」は国土交通省や日本財団等を中心に産学官民共同で行う「海と日本プロジェクト」の一環です。

2019年4月16日

船上劇場 STU48号 出航！

ブロック搭載

STU48号は元々、フェリー「みかさ」でした。

全長	77.8m	全幅	12.5m

まずは、劇場部分にあたるブロックを、大型クレーンでつり上げて、船の上に搭載します。

STU48メンバー 福田朱里さんがブロック搭載を見学！

船がこんなに大きいとは思っていなくて、とても驚きました。これがSTU48専用の船になるなんてすごすぎます！

ぎ装

船を海に浮かべた状態で、船内の内装工事や、様々な装置・機器の取り付けをします。

文字が大きくて、塗るのに時間がかかりましたが、上手に塗れました！

▲左から、藤原あずささん、矢野帆夏さん

船の乗り込み口を新しくしました！検査官が扉から水が漏れないか確認

大きな鉄板を溶接して、船内の部屋を作ります

船舶検査見学&シューター体験

▲左から、信濃宙花さん、福田朱里さん、榊美優さん、三島遥香さん

船舶国籍証書の交付

▲左から、今村美月さん、瀧野由美子さん、福田朱里さん

出航!!!

海上試運転で船の性能や安全確認を終えると、船舶検査証書が交付され、工事完了。船主に引き渡されます。こうして、船上劇場「STU48号」が完成しました!

今後は瀬戸内7県の港を船で回って公演を行います!

乗りものニュース × toSea

KAIJI REPORT NEWS

鹿児島県民のソウルフード「フェリーうどん」が!?

人気ニュースサイト「乗りものニュース」編集長が現場取材!

▲ 第十八桜島丸船内のうどん店「やぶ金」。

▲ さつま揚げは、鹿児島では「つけあげ」という。

▲ 桜島フェリーは鹿児島市営で、5隻が運航中。1日130便が運航され、年間およそ470万人を輸送している。

乗りものニュース　月間3600万PVを記録する、乗り物に特化したニュースサイト。船舶のほか、鉄道、自動車、航空、バスなどの乗り物全般はもちろん、高速道路情報や駅工事情報などの交通インフラのニュースを配信。

「フェリーうどん」がソウルフードになっている――そんな話を聞いて、向かったのは鹿児島港。そこで、桜島港とのあいだを片道15分ほどで結んでいる「桜島フェリー」へ乗り込むと、ありました。「うどん そば」と書かれた提灯に、駅の立食いそば店のようなカウンター。出港前からお客さんが現れ、うどんがサッと、矢継ぎ早に提供されていきます。

作業服姿の人や、桜島観光らしいカメラを持った人など客層は様々。「朝、出勤途中にうどんを食べる」という都会の駅のような風景が、ここではフェリーのなかで日常になっているそうです。

食べる場所は店外でもOKだったので、デッキへ出てみると、そこには絶景が広がっていました。海の向こうから噴煙をあげた桜島が、次第に大きく迫ってきます。都会の駅に、これはありません。

450円の「かけうどん・そば」には、ゴボウ入りのさつま揚げがトッピングされていました。つゆも、甘い鹿児島のしょうゆを使ったもの。

船内営業を約40年前から始めたというこの店舗「やぶ金」では、そばも扱っていますが、出るのはうどんが8割とのこと。鹿児島は「うどん文化圏」では特にないものの、なぜか「桜島フェリーはうどん」になっているようですと、店を切り盛りしていた星原さんは話します。それだけ地元に愛されている、ということかもしれません。

鹿児島湾をショートカットするこの桜島フェリーは、それを使うと鹿児島市中心部と桜島、大隅半島方面との移動を、陸路に比べ大幅に短縮できることから、地域の日常的な交通機関になっています。運航も24時間体制です。

このように「フェリーが生活の一部」だからこそ、日常的な食べ物である「うどん」がソウルフードになったのだろうか……そんなことを考えていたら、あっという間に桜島港へ到着。この片道15分程度の運航で、多いときには50杯以上売れることもあるそうです。遠征帰りのサッカー少年団の子どもたちが一斉注文し、「もう着いちゃうよ!」と必死にかき込む、なんてこともあったとか。

桜島に到着後、港から「サクラジマ アイランドビュー」という所要1時間程度の観光周遊バスに乗車。噴火時には避難所になるという頑丈な構造の湯之平展望所から、鹿児島港を出た小さなフェリーが見えました。

▲ 湯之平展望所から眺めた鹿児島湾。桜島フェリーが向かってくる。